

## 令和7年度 白山中学校 学校評価報告書（要約）

### 1. 学校アンケートの実施概要と評価

今回のアンケートでは、従来の無記名式から**記名式**へと変更されました。これについて第三者評価では以下の意見が挙がっています。

- **記名式のメリット**：過度にネガティブな意見が抑制され、建設的な対話の土台となった点は肯定的である。
- **課題と提案**：一方で回収率の低下が見られたため、今後は「良識ある回答」を前提とした無記名式の再検討や、保護者会での結果共有を通じた協力依頼の強化が必要である。
- **分析の精度**：考察を深めるため、結果には回答数（n 値）や回答率、経年変化を記載することが望ましい。

### 2. 三者（生徒・保護者・教職員）の意識相違と現状分析

「安心・安全な学校風土」については三者の評価が一致して高い一方、特定の項目で認識のギャップ（溝）が見られます。

#### 認識のギャップが生じている主な項目

項目	現状と課題
ICT 活用	生徒の 91%が積極的であるのに対し、教員の肯定感は 78%。授業改善の余地がある。
読書習慣	生徒の 72%が「意欲的」とする一方、保護者の実感は 56%、教員の図書館活用評価は 44%と低い。
地域活動	三者共通で肯定率が著しく低い（生徒 37%、保護者 27%）。学校外への広がり課題。
相談体制	教員の 84%が「相談できている」とする一方、生徒の肯定感は 77%。心理的ハードルが存在する。

### 3. 課題解決に向けた具体的な取り組み（三者連携）

アンケートで明らかになった課題に対し、以下の方向性で解決を図ります。

#### ① 読書習慣と図書館の活性化

- **学校:** 「朝読書」の継続と、教職員による図書館活用を重点目標に掲げる。
- **家庭:** 日常的に本に触れる環境整備を促進する。

#### ② 自律的な学習と ICT の高度利用

- **学習環境:** 諸活動停止期間を活用した家庭学習時間の確保。
- **ICT:** 単なる操作ではなく、MEXCBT 等の活用や「思考を深めるツール」としての授業改善を行う。

#### ③ 相談体制の強化と心のケア

- **組織的対応:** 不安や無気力の早期発見に努め、スクールカウンセラー等と連携した組織的な安全網を構築する。
- **環境づくり:** 生徒がより気軽に相談できる雰囲気作りを徹底する。

### 4. 地域社会との連携・参画

「よりよい未来に向けて社会貢献する生徒」の育成を目指し、地域との接点を広げます。

- **主体的な参画:** 「子ども議会」や「児童会生徒会交流」を通じ、地域課題を自分事として捉える機会を作る。
- **コミュニティ・スクール（CS）の活用:** 地域の専門家を講師に招くほか、八坂神社のゴミ拾いといったボランティア活動への情報提供と推奨を行う。
- **持続可能な体制:** 部活動の地域移行や、PTA のボランティア制への移行を模索し、無理のない地域連携を維持する。

### 5. 令和 8 年度 運営計画の柱

次年度は、三者がそれぞれのプロフェッショナルとしての役割を全うすることで、教育力の最大化を目指します。

1. **教員:** 授業・生徒指導の専門業務に集中し、ICT や図書館を高度に活用した授業を展開する。
2. **保護者:** 学校の働き方改革への理解を深め、家庭における生活・学習基盤を支える。
3. **生徒:** 自律した学びの主体として、読書や地域活動へ積極的に挑戦する。

#### 評価者メッセージ:

「自分を大切にし、子どもを大切にし、仲間も大切にする」姿勢が教育の質を高めます。CS 委員として、安心できる学びの場づくりを今後も支援していきます。